

あるいは循環について

川野 昌通

型取り、溶解、鉄、塩



塩で自身の身体を型取る。

途中、姿勢保持の困難、鬱血症状、胸骨圧迫、体温の低下、塩分による皮膚への刺激などの多くの肉体的負荷によって身体に内在する感覚を知覚していく。

型取り後、塩の雌型に鉄を垂らすことで身体像を浮かび上がらせる。

その身体像(鉄)は塩分によって自然の法則に従って安定した状態(鏽)に還ろうとする。つまり循環である。

そのあり様は、我々の最も身近にある自然物は己であるということを改めて提示しているようだった。

私は制作過程で、私という存在を確認し現実との関係をあらわにする。しかし決して私個人のための歴史を記録として残そうとするものではない。

我々自身がいったい何ものであるのかという普遍的な問いかけになりえるものを現わしたい。